

# 牛久：学校周辺に見る自然

第13号 牛久二小

2011年5月29日発行

## ＜ ビオトープ周辺の観察から ～ 春から夏へ：③植物（草本） ＞

5/20、牛久二小3年生のビオトープ観察の続きです。今回は草の仲間。

### (1) ニワゼキショウ（アヤメ科）



一週間後の授業前に、「<sup>むらさき</sup>紫の小さい花だけど、アヤメみたいなのが見つけたよ！」と言ってきた子がいました。これがアヤメの仲間だと説明できる人は大人でも少なく、「すご〜い、よく分かったね、すごいね〜。」と、たくさん褒めてしまいました。植物の花のつくりは仲間同士よく似ていると言ったことを覚えていたようです。アヤメ科の花は、ガクと花弁の区別がつかない花被が外側に3枚、内側に3枚あり、さらに内側に雄しべが3本、まん中に雌しべの先が3つに裂けています。とても小さく、パッと見た感じではアヤメ科とは気がつきませんが、虫めがねでじっくり観察してみると仲間であることが分かるでしょう。葉のつくりもよく似ていますよ。北米原産の帰化植物で、朝開くと夕方にはしぼんで終わります。それにしても、大したものですよ。そろそろ、あちこちで「あやめ祭り」の開かれる時期ですが、アヤメの仲間の見分け方については「22年度13, 14号」を参考にして下さい。

### (2) コバンソウ（イネ科）

<sup>ちちゅうかいえんがん</sup>地中海沿岸原産の帰化植物で、その名の通り小判のような形の花穂が特徴です。秋になるとこれが黄色に熟して、まさしく小判のように見えてきます。おもしろい花穂なので、私もどこかで見つけたのを一株とって鉢に植えておきましたが、種がこぼれたので、気がついたら庭のあまり土質のよくないところに繁殖してしまい、除草に手間がかかっています。帰化植物、恐るべしです。



### (3) シロツメクサ（マメ科）

最後におまけにシロツメクサ。セイヨウミツバチが、蜜を吸いに来ていました。これまで何度も登場していますが、マメ科の仲間について、詳しくは「22年度6, 7号」を参考にして下さい。そういえば、これもヨーロッパ原産の帰化植物でした。【理科支援員 宮内】

